

院長 コラム

一緒に考えましょう
健康のこと
医療のこと

55

災害医療



市民病院
院長 神谷里明

東海地域は30年以上前より東海大地震に備えています。近年では南海トラフ大地震が30年以内に70～80%の確率で発生すると言われ、それに対する対策が必要となっています。その間に阪神淡路大震災、東日本大震災、熊本地震が発生し、大きな被害が生じています。また地震以外にも洪水や、土砂災害なども発生しています。

何時自然災害が発生するかわかりませんし、何時起きてもおかしくありません。その災害にどう準備し対処するのか？常に災害の予測をし、対策を立て、訓練を行うことにより災害を防ぐことはできませんが被害をできるだけ少なくし、災害後の対策を準備することはできます。

病院としても災害に備え病院事業継続計画（BCP）を作成し、災害時の医療体制を準備し、訓練を毎年行っています。

す。訓練は病院の中だけで行うこともあれば地域、行政と一緒にやって行うこともあります。地震であればこの地域だけでなく、もっと広い範囲との協力が必要となります。

阪神淡路大震災後に、避けられる災害死を無くしたいの考えの基にDMAT（災害派遣医療チーム）という医療チームが全国に作られました。市民病院にも災害に備えDMATは組織されています。医師、看護師、業務調整員（医師・看護師以外の医療職または事務員）による多職種がチームを作り、48時間以内に災害現場に出動し、人命救助を行うものです。直接医療を行うほかに被災地の病院機能を維持するために支援を行ったり、多数の重症患者が発生したときに被災地外に搬送する広域医療搬送などの役割があります。この地域で災害が発生した場合には外部から来るDMATのとりまとめを行います。

避けられる災害死をなくすためには医療チームだけでなく、行政、地域、そして個人一人ひとりの備えが必要です。災害が発生したときに自分の命をどう守るのか常に考えておく必要があります。今一度災害発生時にどう行動するのか家族とともに考えてみましょう。